

鶴見大学紀要

第 48 号

第 1 部 日本語・日本文学編

目 次

西念寺本類聚名義抄における増補と脱漏

——異本注記の有無について—— (三)小林恭治 (1)

呪術の終焉

——古代和歌の心情表現——奥村英司 (29)

『竹風和歌抄』注釈稿 (一)中川博夫 (43)

鶴見大学紀要投稿規定 (左 5)

〔彙 報〕教員研究業績一覧 (左 1)

鶴 見 大 学

2011 年 3 月 (平成 23 年 3 月)

THE BULLETIN OF TSURUMI UNIVERSITY

VOLUME 48 PART 1

STUDIES IN JAPANESE LANGUAGE AND
LITERATURE

CONTENTS

KOBAYASHI Kyoji : Study on Ruijomyogishou comparing The Sainenjibon

Version with The Kanchiimbon Version

—Presence of Notes in Alternative Version —(3)

Eiji Okumura : End of enchantment

—Expression of feelings of ancient Japanese poem —

Hiroo Nakagawa : A study of *Chikuhu Waka Sho* (1)

MARCH 2011

鶴見大学紀要

第 48 号

第 1 部 日本語・日本文学編

鶴 見 大 学

鶴見大学紀要投稿規程

(趣旨)

第1条 鶴見大学（以下「大学」という。）および鶴見大学短期大学部（以下「短期大学部」という。）において研究または教育に従事する者の成果を紀要に公表することについて定めるものである。

(投稿資格)

第2条 紀要に投稿できる者は、原則として、大学および短期大学部において研究または教育に従事する者およびこれと共同で研究に従事する者とする。

(投稿原稿)

第3条 原稿は、未刊行のものに限る。定期刊行物（学術雑誌、商業雑誌、大学・研究所紀要など）や単行本として既刊、あるいは、これらに投稿中の原稿は本紀要に投稿できない。ただし、学会発表抄録や科学研究費などの研究報告書はその限りではない。

(紀要の部編)

第4条 紀要の部編は4種類とし、その邦文及び欧文の標題は次のとおりとする。

- 一 鶴見大学紀要 第1部（日本語・日本文学編）
THE BULLETIN OF TSURUMI UNIVERSITY PART 1
(STUDIES IN JAPANESE LANGUAGE AND LITERATURE)
- 二 鶴見大学紀要 第2部（外国語・外国文学編）
THE BULLETIN OF TSURUMI UNIVERSITY PART 2
(STUDIES IN FOREIGN LANGUAGES AND LITERATURE)
- 三 鶴見大学紀要 第3部（保育・歯科衛生編）
THE BULLETIN OF TSURUMI UNIVERSITY PART 3

(STUDIES IN INFANT EDUCATION AND DENTAL
HYGIENE)

四 鶴見大学紀要 第4部 (人文・社会・自然科学編)

THE BULLETIN OF TSURUMI UNIVERSITY PART 4
(STUDIES IN HUMANITIES, SOCIAL AND NATURAL
SCIENCES)

(発行の回数)

第5条 紀要は、年度内に1回発行することを原則とし、その時期は年度末3月とする。

(提出原稿)

第6条 原稿の作成は、紀要刊行内規で定められた投稿要綱に従うものとする。

(原稿の提出先)

第7条 原稿は、投稿する部編の紀要委員に提出するものとする。

(原稿の提出締切日)

第8条 原稿の提出締切日は、部編により別に定める。

(編集)

第9条 編集は、紀要委員会が行うものとする。

(別刷)

第10条 50部を超える別刷の費用は、著者が負担するものとする。

(著作権)

第11条 紀要の公開にともなう、複製権および公衆送信権に関わる著作権の行使は、原則として大学および短期大学部に帰属する。
ただし、著者が自分の論文等を利用することは差し支えない。

二 論文等の全部あるいは大部分を他の著作物等に利用する場合には、その旨を大学および短期大学部に申し出ると共に、出典を明記する。また、一部分を利用する場合にも、文献あるいは図説の下に出典を明記する。

三 掲載された論文等の執筆内容が第三者の著作権を侵害するなどの

指摘がなされた場合には、著者がその責任を負う。

附 則 この規程は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

〔彙 報〕

教員研究業績一覧（2010・1～2010・12）

岩 間 正 則

「音読・朗読、読書、紹介」

『魅力ある言語活動
の開発事典』

月刊国語教育

2010年5月号別冊

（東京法令出版）

2010・5

『中学生の「記述力」を育てる6つの要素』

明治図書

2010・8

小 林 恭 治

西念寺本類聚名義抄における増補と脱漏
—異本注記の有無について—（一）

『鶴見大学紀要』47
号 第一部 日本
語・日本文学編

2010・3

西念寺本類聚名義抄における増補と脱漏
—異本注記の有無について—（二）

『鶴見大学仏教文化
研究所紀要』15号

2010・4

佐 藤 か つ ら

道化踊から小劇場へ
—明治前期小芝居各座の興亡—

『国文鶴見』44号

2010・3

教員研究業績一覧

『歌舞伎の幕末・明治 ―小芝居の時代―』

単行本、ぺりかん社

刊 2010・4

囃子方 ―歌舞伎芝居と都市社会の間で―

吉田伸之・伊藤毅編

『伝統都市4分節構造』

東京大学出版会刊

2010・8

新 沢 典 子

掛合いシンポジウム「『枕詞』とは何か」

美夫君会特別例会

2010・1

大伴家持作「挽歌一首」の表現と主題

鶴見大学紀要第1

―「玉藻なすなびき臥い伏し」をめぐる―

部、日本語・日本文学編 (47)

2010・3

高 田 信 敬

本居宣長の抗議

鶴見日本文学会報

―『古今集遠鏡』異聞―

66 2010・3

屏風に描かれた田園

平安文学と隣接諸学

―なりわいの季節に関する一考察―

10 2010・5

五節の過差

鶴見日本文学会報

―『竹むきが記』箋註―

67 2010・11

(著書)

『源氏物語考証稿』

武蔵野書院

2010・5

田 口 暢 穂

文学部日本文学科における「長恨歌」の扱い方 『新しい漢字漢文教育』第50号
(全国漢文教育学会)
2010・5

中 川 博 夫

『瓊玉和歌集』注釈稿(三)

鶴見大学紀要
第47号 2010・3

『瓊玉和歌集』注釈稿(四)

鶴見日本文学
第14号 2010・3

大式高遠集注釈

貴重本刊行会
2010・5

松 本 文 子

【略年譜】古筆目利 恒川了廬(一)
一尾張徳川家『御小納戸日記』より一

『鶴見日本文学』14
2010・3

【論文】先んじての扶持
一了廬が支えた大舞台—
(作品発表)

『国文鶴見』44
2010・3

「梓弓…(『古今和歌集』卷一七)」

名古屋市博物館ギャラリー 愛知教育大学書道専攻七期生・書友会卒展 OB 協賛作品展 2010・2

「大井川…(『六帖詠草』小沢蘆庵歌)」

鶴見大学会館1階センタープラザ 鶴見大学文学部日本文学科第44期書道履修生卒展 2010・3

「世をてらす…（頓阿法師歌）」

鶴見大学 1 号館 303
教室 第 46 回紫雲
祭書道部展示
2010・10

三宅 知 宏

【論文】

推量と確認要求

— “ダロウ” をめぐってⅡ—

鶴見大学紀要 47 号
2010・3

不定推量と質問表現

— “ダロウ” をめぐってⅡ—

鶴見大学紀要 47 号
2010・3

“一字漢語スル” 型動詞をめぐって

大島弘子 中島晶子
ブラン・ラウル（編）
『漢語の言語学』
くろしお出版
2010・9

【研究発表】

日本語の疑似条件文と終助詞

日本語文法学会 第
11 回大会（就実大
学） 2010・11

プロトタイプとスキーマ

— “ダロウ” の意味分析—

第 112 回関東日本語
談話会（学習院女子
大学） 2010・9

【随想】

3つの「う」

鶴見大学報第 356 号
2010・5

前 号 目 次

大伴家持作「挽歌一首」の表現と主題

——「玉藻なす なびき臥い伏し」をめぐって——……………新沢典子

西念寺本類聚名義抄における増補と脱漏

——異本注記の有無について——（一）……………小林恭治

「東屋」巻の心理描写

——『源氏物語』の「ころ」の表現——……………奥村英司

『瓊玉和歌集』注釈稿（三）……………中川博夫

「不定推量」と「質問表現」

——“ダロウ”をめぐってⅡ——……………三宅知宏

「推量」と「確認要求」

——“ダロウ”をめぐって——……………三宅知宏

鶴見大学紀要投稿規定

〔彙 報〕

本号執筆者一覧

- | | |
|-------|----------------|
| 小林 恭治 | (文学部教授・日本語学) |
| 奥村 英司 | (短期大学部准教授・国文学) |
| 中川 博夫 | (文学部教授・国文学) |

鶴見大学紀要 第四八号

第一部 日本語・日本文学編

二〇二一年三月一〇日 印刷
二〇二一年三月一五日 発行

発行人 木村清孝

印刷所 三美印刷株式会社

116-0013 東京都荒川区西日暮里五―九―八

電・東京(3803)三三三一

発行所 鶴見大学

230-0063 横浜市鶴見区鶴見二―一―三

電・横浜(045)581-1001(代)